

日本スポーツ学会大賞について

日本スポーツ学会事務局

「日本スポーツ学会大賞」とは、日本スポーツ学会独自の視点・観点によって日本のスポーツ界へ貢献された個人・団体を表彰する制度のことで、2010年に創設されました。

受賞者および受賞団体の選考基準は、「スポーツ界に多大な貢献をしていること」、「受賞の対象となる活動が長期間にわたっており、なおかつ、その活動が後生に好影響を及ぼしていること」、「授賞式当日に会場へ来場し、スピーチ等の講演ができること」の3点で、これらを満たしていればその肩書きや、個人か組織・団体かは問いません。過去の受賞者と授賞理由は以下の通りです。

これまでの受賞者（敬称略、所属は受賞当時）

第1回（2010年度）

坂田信久と日本テレビ箱根駅伝中継スタッフ

実現不可能と言われた箱根駅伝の完全生中継を実現し、日本のスポーツ文化の醸成やスポーツ中継の発展に多大なる貢献をされたため。

※ 受賞記念講演では、坂田氏とともに歴代のチーフディレクター（田中晃氏、新井直彦氏）からもお話を伺いました。

第2回（2011年度）

国枝慎吾／プロ車椅子テニスプレイヤー

日本初のプロ車椅子テニスプレイヤーとして世界的に活躍するとともに、日本の障がい者スポーツの発展に大きく寄与されたため。

第3回（2012年度）

柳澤久／三井住友海上火災保険株式会社 女子柔道部監督

女子柔道の創設期から指導に関わり、多くの名選手を育てるとともに、女子スポーツの発展に多大なる貢献をされたため。

第4回（2013年度）

落合博満／元中日ドラゴンズ監督、日刊スポーツ評論家

長きに渡り野球界で活躍するとともに、独特の鋭い視点でプロ野球の評論・講演活動に新たな境地を切り開いたため。

第5回（2014年度）

岸本健／株式会社フォート・キシモト 代表取締役社長

日本初のフリースポーツフォトグラファーとしてスポーツ写真の黎明期から幅広く活躍し、日本のスポーツ報道や教育などに多大なる貢献をされたため。

第6回（2015年度）

賀川浩／サッカーライター

長期に渡る取材活動や記事の執筆などを通じ、スポーツジャーナリズムのみならず日本のサッカーやスポーツの振興・発展に多大なる貢献をされたため。

第7回（2016年度）

今西和男／元サンフレッチェ広島・F C岐阜GM、吉備国際大学教授

サッカーを通じて社会性や人間性に富んだ人材を育成するとともに、日本のサッカーとスポーツの普及・振興に尽力されてきたため。

第8回 (2017年度)

田臥勇太／プロバスケットボール選手 (B.LEAGUE・栃木ブレックス所属)

日本人バスケットボール選手のパイオニアとして国内外のトップレベルで活躍を続け、日本のバスケットボール文化の発展に多大な貢献をされているため。

以上